

I 新潟市教職員の資質向上に関する指標

1 「これからの中社会をたくましく生き抜く力の育成」の実現と学び続ける教職員のために



指標の目的

- (1)社会が変化し、市民の学校教育へのニーズや期待が多様化する中で、新潟市の教職員として求められる資質を明確にすることを目的としています。
- (2)本指標は、教職員が担う役割が高度に専門的であることを示すものであり、教職員一人一人が教職生活全体を俯瞰しつつ、自らの職責、経験及び適性に応じて、更に高度な段階を目指す手掛かりとするためのものです。
- (3)大学との連携・協働による教職員の養成・育成の円滑な接続を行い、指標に基づく共通認識の下、優秀な人材の確保及び教職員の資質の向上を図ることを目的としています。

指標の活用

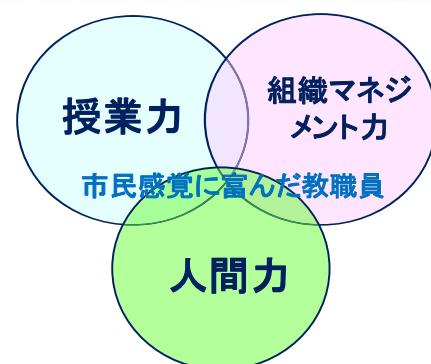
- (1)教職員が自らの資質を把握し、資質向上に向けた目標設定を行うための具体的な指標として活用します。【教職員】
- (2)校内研修やOJTにおける組織的人材育成の指標として活用します。【学校】
- (3)教育委員会の主催する研修事業の企画・運営等に活用します。【教育委員会】



教職員として求められる資質

新潟市教育ビジョンに基づき、新潟市の教職員として求められる資質に関して「授業力・実践力」「組織マネジメント力」「人間力」の3観点から指標内容を定め、各項目を設定しています。

「授業力・実践力」は専門性に関わる指標内容であり、職種によって異なる項目を設定しています。また、「人間力」は全ての職種に共通の指標内容としています。



〈新潟市教育ビジョンが目指す教職員〉

- 所属職員の人材育成に大きな責任と役割を担っている校長に求められる資質能力を明確にするとともに、校長の指標を別に策定しました。
- 「ICTデータの利活用」の項目は、「学習指導」「生徒指導」「特別支援教育」をより効果的に行うための手段として位置付けています。
- 「特別支援教育」の項目は、「学習指導」「生徒指導」を個別最適に行うものとして位置付けています。

キャリアステージの区分

教職員一人一人のキャリアパスは多様であるとの前提の下、研修等を通じて教員等の資質の向上を図る際の目安として、次のとおり概ね3つの段階に分けました。

第1ステージ

学級経営、教科指導等の担当業務を中心に行きながら、教職員としての基礎・基本を習得する段階です。



第2ステージ

校内研修やOJTを積極的に活用して専門性を向上させ、担当業務遂行能力を高める習熟の段階です。

第3ステージ

自己の資質にさらに磨きをかけるとともに、自校や地区における他の教職員の資質向上に向けて支援する充実・還元の段階です。

※事務職員は、第3ステージに、副主査・主査【充実期】、主任【還元期】、事務主幹・総括事務主幹【管理・運営期】を、職務によって細分化して位置付けてあります。

初任

2～6年目

7～13年目

中堅研修了後～

**第1ステージ
習得期 ホップ**

**第2ステージ
習熟期 ステップ**

**第3ステージ
充実・還元期 ジャンプ**

専門的指導力の向上

マネジメント能力の向上

初任者研修・新規採用者研修

若手教師研修

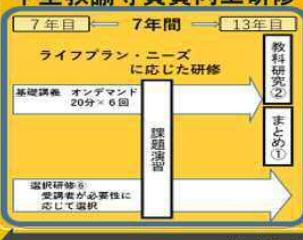
2年目研修	3年目研修	4年目研修	5年目研修	6年目研修
-------	-------	-------	-------	-------

職種に応じた経験研修
養護教諭

栄養教諭

事務職員 事務職員

中堅教諭等資質向上研修



第3ステージ研修

①36歳～40歳	②41歳～45歳	③46歳～50歳	④51歳～55歳	⑤56歳～60歳	⑥61歳～65歳
----------	----------	----------	----------	----------	----------

①期～⑥期それぞれの期で研修計画と振り返り
※5年間で5回の研修を受講。但し、40、45、50、55、60、65歳時年度は指名研修。他年度は1年に1回の選択研修（校長の認めた自主研修を含む）の受講

管理・運営期

管理職研修

組織力向上研修

ミドルリーダー研修

マイスター養成研修

授業力向上研修

I C T 研修 / 特別支援教育研修 / 健康教育研修

職種・分掌等に応じた専門研修

校内研修(OJT) / 自主研修

〈新潟市教職員研修体系イメージ図〉